

東京駅新幹線ホーム入口の銘板には次のような言葉が刻まれています。

この鉄道は日本国民の叡智と努力によって完成された

Product of the wisdom and effort of the Japanese people.

ちょうど一昔前、土木界は空前の熱気にあふれていました。東京オリンピックの成功によってわが国全体のムードも明るかったのですが、中でも、基本的には技術の後進国と世界的低評価を一挙にはね返した東海道新幹線の誕生は、わが国が明治開国以来打ち立てた最大の金字塔として挙国的な祝福を受けました。当時学会誌編集の世話係をさせて頂いておりましたが、名神高速道路・首都高速道路・大都市地下鉄網……とめじろ押しの大プロジェクトに眼をみはりながら、編集スタッフといっしょに生きがいを感じていたものです。勤務しておりました鉄道技術研究所でも、みんな眼が生き生きとしておりました。

あれから10年、いろいろなことが本当にいろいろとあって、日本も変わってしまいました。世相を反映したのか、新幹線も故障続きで生彩を欠いており、総需要抑制や公害反対の声に押されて、土木技術者の眉も今ひとつ晴れておりません。

ケネディ元大統領がはにかんだように笑うテレビを見たアメリカの少女が、びっくりして次のようにいったという新聞記事を見ました。

「大統領ってそんなに美しく笑うことがあるの？」

暗然とさせる悲しい沈んだ言葉です。しかし、病んでいるのはアメリカだけでない……本当に、あのわが国をおおっていた明るい、疑いを知らない、爽やかな熱気は一体どこに行ってしまったのでしょうか？

ニクソン大統領はとうとう辞任しました（正確には前大統領といわなければなりません）。変わるべきものが変わってゆくのを見るとリンカーンが思い出されます。

You can fool some of the people all the time, and all of the people some of the time, but you cannot fool all of the people all the time.

ほろびゆくべきものがほろびてゆくのは当然です。天はあらゆる無為を罰し、万物は永劫に生々流転している

ことを考えると、10年で世の中が変わって何の不思議もないかも知れません。だがしかし、一番大事な国づくりをになう土木技術者の眉が曇るなどということが、この日本であってよいものでしょうか？ 公共投資による社会資本の貧困さで定評のあるこのわが国において。また狭小な国土と極端な資源の乏しさで世界に冠たるこのわが国において。

私は言い直さなければなりません。物の資源は乏しくても、わが国の頭の資源はきわめて豊かです。この頭資源によって物資源の不足を補っていなかったら、日本はどんな悲惨な状態におちいていたか。このことは、わが国の有識者なら片時も忘れてはならないと思われまます。頭資源は使えば使うほどよくなり、ふえてゆく増殖的性質を有しています。こういった頭資源をうまく回転させた場合、ハーマン・カーンの予言によると、石油ショックなども乗り越えて、わが国はそのうちアメリカより豊かになるそうです。物資源と頭資源の両方に恵まれた世界最強の国を、そう簡単に追い越せるとは思えませんし、第一、物資源の貧困さにおいてかくも徹底しているわが国が、そう肩を張って無理をするのには危惧も感じられます。しかしながら、はっきりしていることは新しく海洋をも含めてわが国ができるだけ活用されやすいように、国土を理想的な形に形成してゆく、こういった土木技術者の責務は、いよいよ重大だということです。米粒、釘1本もつくらぬ地主や遊民の徒の類だけがゆるみっぱなしで、1億の大人がみんな満足に食べてゆけるなどというような楽園に私たちは住んでいるわけではない。このことは、何度強調しても強調されすぎることはないと思います。

偉大なことは一種の狂気によってのみ達成されるといった人がいます。狂気とまでゆかないでも、一昔前の土木界にあふれていたあの明るい、時代を切開く熱気——これがあってこそ人は困難に堪えて前進することができるあのストイックな熱気は、何としても取り返さなければなりません。土木学会の創立50周年は土木界未曾有の活況でいどられました。創立60周年は、世に土木技術者の使命を問い直す、歴史的な turning point にぜひして頂きたい。このことを念願しながら筆をおきます。

* 正会員 工博 東京大学教授 工学部土木工学科